

## 簡易懸濁法における崩壊懸濁試験及び通過性試験

### 試験目的

カルボシステインドライシロップ33.3%「タイヨー」につき、簡易懸濁法での適用が可能かどうかを検討する為、崩壊懸濁試験及び通過性試験を実施したので報告する。

### 試験材料

カルボシステインドライシロップ33.3% Lot. M8KA4 大洋薬品工業株式会社

### 測定方法

①崩壊懸濁試験：ディスペンサー内に本品成人1回量1.5gを入れ、55℃の温湯20mLを吸い取り、5分間自然放置した。5分後にディスペンサーを90度で15往復横転し、懸濁の状況を確認した。5分後に懸濁しない場合、さらに5分間放置後、同様の操作を行った。

②通過性試験：崩壊懸濁試験で得られた懸濁液を経管栄養チューブの注入端より2～3mL/秒の速度で注入し、チューブのサイズ、8、12、14、16、18フレンチ（以下Fr. とする）において通過する最小経管栄養チューブのサイズを確認した。

### 試験結果

崩壊懸濁試験の結果を表1に、通過性試験の結果を表2に示す。カルボシステインドライシロップ33.3%「タイヨー」は、5分の時点で温湯に懸濁し、8Fr. のチューブを通過した。

表1 カルボシステインドライシロップ33.3%「タイヨー」の崩壊懸濁試験結果

品目名	懸濁状況
カルボシステインドライシロップ33.3% 「タイヨー」	5分の時点で懸濁した

表2 カルボシステインドライシロップ33.3%「タイヨー」の通過性試験結果

品目名	最小通過サイズ
カルボシステインドライシロップ33.3% 「タイヨー」	8Fr. チューブを通過した

### 結論

カルボシステインドライシロップ33.3%「タイヨー」は温湯に対して懸濁し、8Fr. のチューブを通過したため、簡易懸濁法を適用可能と考えられる。